【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和5年5月17日(2023.5.17)

【国際公開番号】WO2022/044753
【出願番号】特願2022-545606(P2022-545606)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｄ　5/347(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｄ　5/347　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】令和5年1月30日(2023.1.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
（実施の形態）
図１は、実施の形態に係るエンコーダ１０を備えるモータ１を示す図である。図２Ａと図２Ｂは、図１のエンコーダ１０の回転板１２を示す図である。図２Ａは、回転板１２を軸方向から見た図であり、図２Ｂは、図２Ａの点線で囲まれた部分を示す拡大図である。なお、図１では、ケース６、第１パターン２４、および第２パターン２６を断面図で示す。また、以下の説明において、軸方向とは、回転軸線Ａが延びる方向（図１の矢印Ｘ参照）を示し、径方向とは、回転軸線Ａを中心とする径方向（図２Ａと図２Ｂの矢印Ｙ参照）を示し、周方向とは、回転軸線Ａを中心として回転軸線Ａを囲む周方向（図２Ａと図２Ｂの矢印Ｚ参照）を示す。径方向は、周方向と回転軸線とに直角である。図１および図２Ａと図２Ｂを参照して、エンコーダ１０の構成について説明する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５７】
一方、第１の並びの先頭から２番目の単位領域は第２単位領域３４であり、第１受光部材４８は、当該第２単位領域３４と対向した場合、照射部１８から照射された光を十分に受光できない。したがって、当該第２単位領域３４と対向することによって第１受光部材４８が受光した光の強度は、所定の閾値よりも小さいので、第１受光部材４８は、「０」を出力する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
たとえば、第１の並びの各単位領域と対向することによって、第２受光部材５０は、９個の値を出力する。第１の並びの先頭は第２単位領域４２であり、第２受光部材５０は、当該第２単位領域４２と対向した場合、照射部１８から照射された光を十分に受光できない。図５（ｂ）に示すように、当該第２単位領域４２と対向することによって第２受光部

材５０が受光した光の強度は、所定の閾値よりも小さいので、第２受光部材５０は、「０」を出力する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】
一方、第１の並びの先頭から２番目の単位領域は第１単位領域４０であり、第２受光部材５０は、当該第１単位領域４０と対向した場合、照射部１８から照射されて当該第１単位領域４０を透過した光を受光する。当該第１単位領域４０と対向することによって第２受光部材５０が受光した光の強度は、所定の閾値以上であるので、第２受光部材５０は、「１」を出力する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９４】
図７に示す算出回路５６は、Ｍコード（既約多項式）：$X^9+X^7+X^5+X^4+X^3+X^2+1$に基づく値を算出するための回路である。算出回路５６によって得られる値に基づいて第１パターン２４を形成することによって、第１の並びおよび第２の並びを有する第１パターン２４を形成できる。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１４６】
図１４に示す算出回路８８は、Ｍコード（既約多項式）：X^9+X^5+1に基づく値を算出するための回路である。算出回路８８によって得られる値に基づいて第１パターンを形成することによって、第１パターン２４とは異なった第１の並びおよび第２の並びを有する第１パターンを形成できる。